実践し
省察する
コミュニティ

実践研究福井ラウンドテーブル

2015 summer sessions

2015.6.26-28

福井大学総合研究棟Ⅴ（教育系１号館）/　AOSSA

6/26 Fri.

Presession

6/27 Sat.

Zone A　学校

これまでZone Aでは「子どもたちのコミュニティを支える教師のコミュニティ」をテーマとしてセッションを積み重ねてきました。昨年度6月は“教師のやりがい”をサブテーマに設定し，教員組織において子どもたちの豊かな学びにつながるビジョンを共有することの重要性を再認識しました。しかしそれを現実のものとしていくためには、立場や世代，考え方など教員の間にある様々な違いを越えたビジョンの共有がいかにして可能なのかということについて考えていく必要があります。そこで、昨年度2月のラウンドテーブルでは、「子どものこと、授業のことを語り合える組織づくり」というサブテーマを設定し、子どもたちの豊かな学びを支えるための協働する組織づくりや学校全体のコミュニティの活性化について改めて考えることにしました。このセッションを通して私たちが気付かされたのは、子ども個人に着目すること、日常的に語り合うこと、皆で共にあることといったシンプルな原則でした。

「アクティブ・ラーニング」というスローガンがかつてないほど人々の教育にかかわる言説に現出していく一方で、もしかすると私たちは、言葉の響きにとらわれて日常の現実に潜む無数の可能性を見落としやすくなっているのかもしれません。そうであれば、個別の教育現場で展開されている具体的実践に耳を傾け、自らのあり方と照らし合わせ、そしてその気づきを人々と共有していくことが、これまで以上に必要になってきていると言えるのではないでしょうか。

そこで私たちは、今回のラウンドテーブルにおいても前回のサブテーマを継続しつつ、改めて「子どものこと、授業のことを語り合える組織づくり」を個々の学校の現実に根ざして考えること、そしてそれを参会者の皆様と共有することを通して、子どもたちのコミュニティを支える教師のコミュニティの可能性について、より検討を深めていければと思っています。

オリエンテーション　12:40-12:50

Session Ⅰ　ポスターセッション　12:50-13:50

福井県内外の小学校・中学校・高校・特別支援学校から、子どものこと、授業のことを語り合える組織につながる学校づくりの実践についてポスター報告が行われます。ポスター報告にもとづき、各学校及び参会者で互いの実践を交流します。

Session Ⅱ　シンポジウム　14:00-15:50

「子どものこと、授業のことを語り合える組織づくり」について，そのプロセスをシンポジストに報告いただき、コメ

ンテーターを通して，参加者の皆様とともに，実践の意義について考えていきます。

〈シンポジスト〉　栃川 正樹（福井市豊小学校　教諭）
高嶋 和代（福井市安居中学校　教諭）
鮫島 京一（奈良女子大学附属中等教育学校　教諭）

〈コメンテーター〉　千々布 敏弥（国立教育政策研究所教育研究情報センター　総括研究官）

〈コーディネーター〉　森田 史生（福井大学教育地域科学部附属中学校　教諭）

SessionⅢ　フォーラム 16:00-17:20

Session Ⅰ と Ⅱ を受け、参会者で小グループをつくり、それぞれの立場や背景を基盤として「子どものこと，授業のことを語り合える組織づくり」について議論し、実践を共有していきます。すべての参会者の皆様が日々、感じていることや悩んでいることについて、本音を交えてじっくりと語れる場にしたいと考えております。

Zone B 教師教育

Zone B では，生涯にわたる教師の職能成長を支える教師教育という視点から，前回に引き続き「21 世紀の教師教育をイノベーションする」をテーマとし，「チーム学校」を支える教師教育と，教師教育の中核を担う学校・行政・教職大学院の連携の在り方を探っていく。

現在，中教審において，「これからの学校教育を担う教職員やチームとしての学校の在り方について」（平成 26 年 7 月 29 日諮問）の審議がなされている。「チーム学校」は，学校組織全体が一つのチームとして力を発揮していくことであるが，教員と教員以外の者がそれぞれの専門性を連携して発揮することが欠かせない。チームの一人一人が，「各自の専門性を発揮すること」はもちろん，「他者との連携」を実現する力量を養うことも求められている。

一方，政府の教育再生実行会議の「これからの時代に求められる資質・能力と，それを培う教育，教師の在り方について」（平成 27 年 5 月 14 日第 7 次提言）においては，「国や地方公共団体，大学等が協働して，教員がキャリアステージに応じて標準的に習得することが求められる能力の明確化を図る育成指標」や「教師の育成指標に基づく研修指針等」を策定するとされている。

このように，一人一人の教師が，主体的，協働的で能動的な学びを展開できる資質・能力を身に付けるために，教員養成・採用・研修の全ての段階において，教職大学院の果たす役割は今後ますます拡大していく。

そこで，今回の Zone B では，「チーム学校」を実現するために，チームの一人一人が専門職としての資質・能力を伸ばしていけるようにする評価の在り方と，それに呼応する学校・行政・教職大学院の役割について，これまでの成果を踏まえて参会者の皆様方と共に以下のセッションを進める。

オリエンテーション 12:40-12:50

Session Ⅰ　ポスターセッション 12:50-13:50

教師教育に関する実践をポスター報告いただき，参会者の皆様方と共に実践を交流します

SessionⅡ　シンポジウム　14:00 – 15:20

「『チーム学校』を支える教師教育～教職大学院の成果を問う～」

〈シンポジスト〉茂里　毅　（文部科学省初等中等教育局教職員課長）
柳澤　好治　（文部科学省高等教育局視学官
（命）大学振興課教員養成企画室長）

牛渡　淳　　（仙台白百合女子大学長／日本教育経営学会会長）
津田　由起枝（元福井市立安居中学校長）

〈司　会〉　　松木　健一　（福井大学教職大学院・教授）

SessionⅢ　フォーラム　15:30 - 17:40

先の 2 つの session を受け，小グループに分かれて参会者の皆様方と議論を進めます

Zone C コミュニティ　学び合うコミュニティを培う

この間 ZoneC ではコミュニティの発展における「持続性」の問題を共有し検討しています。現在私たちが地域や職場で出会う課題は，ある一つの方法や，個人的・個別的な取り組みでは必ずしも解決し得ないより複雑なものへと変化し続けています。地域の発展を支える自治や学習においても，その持続的な展開をどのようにコーディネートしていくかがこれまで以上に問われていると言えます。それは，コミュニティの持続的な発展に向け世代をこえてつながり学び合うことをどのように支えていくことができるのかという課題への挑戦でもあります。

ZoneC は，福井市教育委員会生涯学習室・福井市中央公民館の協力の下，JR 福井駅東口前の AOSSA が会場です。　地域・世代・領域を超え互いの実践の展開を捉え直し，＜人や組織をつないでいくこと＞，＜世代のサイクル・新しい実践の担い手＞，＜コーディネーターの力量形成＞といった視点から上記の問いを深めていきます。

Session I はポスターセッションです。AOSSA のフロアをまたぐ空間的な拡がりの中にポスターを配置し，それを通じて互いの実践を交流します。Session Ⅱのシンポジウムは「持続可能なコミュニティをコーディネートする－多文化共生社会を支える聴くこと・省みることー」と題し，コミュニティの持続的な発展と専門的力量形成を支える傾聴と省察の意義を考えていきます。前回と前々回では「語り・聴く」関係性の中で活動が編まれ，実践がつながり，コミュニティがひらかれていく可能性が確認されました。今回はこれまでの議論を踏まえ，地域のコーディネーターが多文化共生という新たな課題の担い手である実践者達の取り組みを傾聴し共に省察することでコミュニティが編まれていく可能性に注目します。SessionⅢのフォーラムでは，シンポジウムでの問題提起を受けながら 6 人程度の小グループを組み，地域・世代をこえて互いの活動を交流・共有していくクロスセッションを進めます。

多くの皆様のご参加・ご来場を心よりお待ちしています。

オリエンテーション　12:40-12:50 AOSSA6 階（参加受付ブースあり）

Session I　ポスターセッション　12:50 - 13:50　AOSSA4 階アトリウム・5 階展示スペース

「世代をこえて学び合うコミュニティをコーディネートする」
福井市・越前市・池田町・勝山市他の公民館・福井大学探求ネットワーク・福井市教育委員会生涯学習室・福井大学履修証明プログラム「学び合うコミュニティを培う」他

Session Ⅱ　主旨説明・シンポジウム　14:00 - 15:20　AOSSA6 階レクリエーションルーム

「持続可能なコミュニティをコーディネートする－多文化共生社会を支える＜聴くこと・省みること＞」

〈シンポジスト〉　辻端　聡子（ふくい市民国際交流協会）他

〈司会〉　半原　芳子（福井大学）他

SessionⅢ　フォーラム　15:30 - 17:40　AOSSA6 階レクリレーションルーム

Zone D 授業

ZoneD では，これまで授業にまつわる様々な問いを語り合い聴き合いながら授業改革の扉を開いてきた。子どもの目線から授業を体感し，授業者としていかに冒険できるかを問い直し，授業を駆動する問いはどのように生まれるのかへと問い進め，質の高い学びを生む問いとはどのようなものかを問うに至った。今年春のラウンドテーブルでは，原点をまっすぐに見つめ，「私たちは授業の積み重ね（授業ｓ）の末に何を残したいと願うのか」を聴き合い，語り合う中で，生徒が主体的に学びあうために必 要な「解放」と，子どもたちが夢中になって学びあう「教室文化」の創造が授業改革の扉を開く鍵の一つであることを共有できた。しかし，学生から投げかけられた「どうしたらこういう授業ができるのでしょう？」という問いが残された。今回は，「どうしたらできるの？～アクティブラーニング を考える～」というテーマで語り合いながら学生の問いについて参加者の皆さんと，質の高い授業作りのためのアクティブラーニングについて考えてみたい。

オリエンテーション 12:40-12:50

Session Ⅰ ポスターセッション 12:50-13:50

Session Ⅱ シンポジウム 14:00 – 15:20

「学び合う教室文化」を創る校内研修の在り方（仮）

〈シンポジスト〉 本橋 和久（牛久市立ひたちの牛久小学校 教頭）

〈ファシリテーター〉 小林 和雄（福井大学）

SessionⅢ フォーラム 15:30 - 17:40

「協働探究型の授業」は生徒をどう変容させるのか（仮）

〈シンポジスト〉 永廣 裕子（福井市至民中学校 教諭）

〈ファシリテーター〉 冨永 良史（福井大学）

6/28 Sun. 8:30-14:00

小グループで実践の展開を聴き合います

実践記録を土台に実践の歩みをじっくり語っていきたいと思います。心に残っている場面。言葉，表情，行為。その時々に感じていたこと。ふり返る中で見えてきたつながり。話し合いと記録づくりの中ではじめて気づいたこと。いま改めて跡づけ直して考えていること。

語られる展開に耳を傾け，活動の場面を共有し成長のプロセスを探っていきたいと思います。実践の過程をじっくり語り・聴き合う場，実践を共有して協働探究できる関係がより広く培われていくことが，その後の実践への問いの深まりを支える拠り所になると思います。

参加申し込みの方法は、福井大学教職大学院ホームページ **http://www.fu-edu.net/** をご覧ください。あわせて、6 月 22 日のラウンドテーブルの実践報告者を募集しています。ご希望される方は入力フォームからお申し込みください。